

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	空家（テニソン）：文苑；俳句
Author(s)	白人；晶子
Citation	龍南會雜誌， 1 3 8： 3 9 - 4 0
Issue date	1910-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6113">http://hdl.handle.net/2298/6113</a>
Right	

學校に居る時は色々な疑惑に迷つては考へ、思つては迷つたものだ、休暇に歸省してから此の方、念頭に徂徠するものとしては余りにない、此の頃の日課として毎日ローリンソンの六ヶ敷い論文を毎日々々少しづつ譯して行く、寢る時には行きつまつた難解の句を繰り返し／＼考ては無意識に夢に居るのが常である、今夜も或る一句を考へて居る。……………藝術家が必然にして無意識なるマテリアルに靈性を攝取せしむる場合に於て其の靈性なるものは、多くのアーティストが各々特異のものを攝取せしめるのだ……と自分が譯して意味の判然せんの色々と案じ煩つて居た。

潮は最う満ち初めて居る、消ゆ残りの蚊遣火は靜かに薄い煙を薰つて部屋を廻る、かくの如くにして二人の異つた性格は全じ衾の裡に淺い夢に包まれて終つた。海峡の潮風は間斷なく風鈴に衝つて靜かに夏の夜を響く、青きに隅取られた夢一筋の銀河に夏の夜はいたく更け渡つて居るらしい。闇を渡る無韻の時の響は深くしめやかに縷の如く續いて居る……………(完)

(四十三年十一月二十日夜稿)

## 空家(テニソン)

白人

(一)

「生命」と「思想」とは相並んで既に去りぬ、  
戸も窓も捨て去りし思ひやりなき、  
住人よ。

(二)

家の物皆夜の如く暗し、  
窓の中にも光なし、  
戸邊の私語のいかに屢なりしよ、  
あゝ今やなし。

(三)

ドアと堅く扉も堅く、  
窓を通して見るものは、  
唯に暗き此の家の、

「幽寂」と「空虚」とのみ。

(四)

去れよ――

此處には歡樂と樂しき響きも、  
今は早や聽くべからず、

土造の家の、

いかで又地に返らざるべき。

(五)

去れよ――

「生命」も「思想」も今は早や此處には住まじ、

なれど又偉なる遠き都に、

はなやかなる遠き都に、

朽ち崩れざる館買はれぬ、

「生命」と「思想」のいかで又此處に住むべき。

晶子

少女なれば脉に華咲く夢は見し我身落るを戀  
さや思ひし。

うたゝれの夢路に逢ひに來し人の蓮歩の跡を  
思ふ雨かな。

少女子の趣きあるをあがなふと玉の御座を賣  
る子もあらば。

或宵のあさましかりし臥し所思ひぞ出づる嫌  
鳴け。

友染の袖十あまり圍う寄り千鳥聞く夜を雪降  
り出でぬ。